



平成28年に完成した本社・工場

質の高い高機能樹脂加工品で 多様化する顧客ニーズに応える

株式会社 ヤマトウ

事業内容と沿革

樹脂加工に特化し 技術力とノウハウを蓄積

昭和55年10月にヤマトウ工業として創業。その後、昭和62年10月にヤマトウに社名を変更し、徐々にグループ会社を増やすことで事業を拡大してきた。平成28年11月に現在の新本社を開設し、事業展開を加速している。

創業以来、一貫してエンジニアリングプラスチックを中心とする高機能樹脂材料の機械加工を手がけてきた。事業の核となるのが食品・飲料製造機器向けの樹脂部品。特にアイスクリームやソフトクリームをつくる装置部品では高シェアを誇るという。次に柱となるのが半導体製造装置向けのフッ素樹脂の加工品。ここ最近の受注量は、これまでの1.5倍から2倍と好調に推移している。

設備の不足が原因で注文が取れないということのないよう、設備・機器への投資には余念がない。今年に入りマシニングセンター(MC)を3台導入した。平成30年末にはロボット制御の旋盤1台の追加を検討しており、さらなる生産効率の向上を図る考えである。

また現在、航空機のオイルフィルター関連部品も手がけており、毎月6,000個から7,000個を継続的に供給している。厳しい管理と検査を強いられる分野であるが、新しい航空機部品にも取り組んでおり、これが同社の技術力を証明しているといえる。

強み

充実した設備で 微細加工から大物加工まで対応

充実した最新鋭の設備を活用し、高品質な製品を迅速に供給できるのが同社の強みである。同時5軸MCや大型MC、インテリジェント複合加工機や大型NC(数値制御)旋盤など、合わせて約60台の機器・設備を誇る。直径1mmの微細加工から、直径400mm・長さ2mの大物加工まで、あらゆる顧客ニーズに応えられる体制を整えている。量産を得意とする同社であるが、3Dプリンタも有しており、単品の試作にも低コストで素早く対応。「とりあえず現物(サンプル)を見たい」といった急ぎの商談などに有効活用しており、これが奏功して受注につながった案件も少なくない。何より、高機能樹脂に特化して磨いてきた技術と、蓄積したノウハウが武器である。

また、自社開発の生産管理システム「ヤマトウタイムラインシステム」も生産性向上に大きく貢献している。ゴードン・ソリューション社製のCAD/CAMソフト「Nazca. Neo」を使用し、これに独自のノウハウをつぎ込むことで、工場のマネジメントに役立つ複数の機能を確立した。全ての機能がインターネットなどのWEBブラウザから操作可能で、リアルタイムに稼働状況を把握。工場や複数の機械を一元管理している。



充実した設備でニーズに応える



厳しい温度管理で精度を高める



高機能樹脂材料の加工に強みを持つ



最新鋭の設備で素早く対応

企画・提案
試作・受託
短納期対応
多品種少量
量産対応
コスト相談

幅広い分野に高品質・高精度な樹脂加工部品を迅速に提供する



代表取締役
とうま 吉克さん

常に最新鋭の機器・設備を活用し、多様化する顧客ニーズに素早く対応できるのが強みです。幅広い分野におけるさまざまな要望を、樹脂加工製品として具現化できます。これらを実現できるのは、豊富な機器・設備に加え、高機能樹脂材料に特化して蓄えた加工技術・ノウハウを有しているからです。

また、当社は業界トップブランドの樹脂材料を取り扱っており、これを使用した加工製品は、海外でも通用する品質であると自負しています。

今後もさらなる顧客満足の向上を目指し、品質優先のものづくりを進めていきます。

主な事業内容

エンジニアリングプラスチックを中心とした精密機械加工

主な取引先(納入先)

食品・飲料機器メーカー、半導体製造装置メーカー、自動車部品メーカーなど

【住 所】〒551-0038 大阪府門真市柳田町30-1

【TEL】06-6909-8010

【FAX】06-6909-8011

【創 業】昭和55年10月 【設 立】昭和55年10月

【資本金】1,000万円 【従業員】35名

カドマイスターの取り組み

適材・適所に人材を活用し、 課題克服に取り組む

人材の確保が難しい中、機械・設備が充実しているとはいえ、そのオペレーターが少ないという課題がある。そのため準備や取り替え作業など、簡単な作業にはパート従業員や派遣従業員を活用し、製造現場の仕事の流れの円滑化を図っている。

また、検査部門の担当者には業務内容の適正を考慮し、すべて女性を配置。このように適材・適所を臨機応変に取り組むことで、人材難の課題の克服を図っている。

現場での教育を軸に、 意識向上と意思疎通を図る

人材育成についてはOJTを中心に現場の上司や先輩が教育する。若手社員は仕事への意識が高く、指導・育成について障害はまったくないという。これが業務を遂行する同社の体力の源となっている。

社員の意識を高める活動としては、休日を利用したバーベキュー大会や、日々の食事会などでコミュニケーションを密にし、ベクトル合わせを図っている。勤務時間内では口に出せない思いや、仕事上の問題を互いに共有することで、業務改善に生かしている。

今後の展開

営業強化で受注拡大と 新規開拓に取り組む

今後も業務を変えることなく、現在の取り組みに磨きをかける方針である。特に営業活動には力を注ぎ、既存顧客への新たな提案と、新規顧客の開拓で受注のパイを拡大する考えだ。このような取り組みにより、医療機器部品については受注量がこれまでの約10倍にアップした案件もあったり、また新たな商談も生まれるなど、提案営業の重要性を改めて認識したという。その他、同プラスチック加工業者との取り引きも、ここ最近は増えている。分野を問わず、幅広く提案を行っていく。

同社の特徴は高機能樹脂素材の切削を中心とする加工に特化して、事業を展開していること。成型では難しくコストのかかるような加工であっても、切削であれば低コストで精度よく仕上げることができる。当然、特化して事業を進めてきたことにより、積み重ねた経験とノウハウは他社に比べ大きな武器となっている。これからも事業の幹は変えず、より太くするための取り組みにまい進する。

<http://www.yamatou.co.jp/>

